

はなく、訓練の目的を分かっ
てもらい、プログラムを行っ
てもらいます。

復帰して2ヶ月の頃、いつ
もは一生懸命訓練に取り組ん
でくれるAさんが、その日は
訓練が始まって笑ってしま
い、真剣に取り組んでくれな
いことがありました。お母さ
んも私も少し厳しい口調になっ
てくると、今度は「先生なん
て嫌い。」「訓練やらない。」
と。確かに、普段よりも歩き
方がフラフラで疲れている様
子。始まったばかりの学校生
活に疲れて、上手くできない
ことを笑ってごまかそうとし
ていたようです。「今日は疲
れているから、上手くできな
いんだね。」私は、○○君と
訓練するの楽しいからまた、
一緒に訓練したいな。」と言
うと笑って「僕も訓練好きだ
よ。」と答えてくれました。
その後は、少しプログラムを
変更し最後までやり遂げるこ
とができました。お母さんに
も「疲れているのによくがん
ばったね。」と褒められ、と
ても嬉しそうにしていました。
「来てよかったな。」と思える
訓練ができるように技術を伸
ばしていくとともに、患者さ
んと関われる時間を大切にし
ていきたいと思えます。
(リハビリテーション部 作業療法士)

澤村 桂子

1月に通算3度目の育児休
暇を終え、北棟こだまに復帰
しました。

生まれた子供との生活にも
慣れ始めた去年の春、せっか
くだけける8年ぶりの休暇、
こんなチャンスはもうありま
せん。週末しかしなかった掃
除を毎日し、天気の良い日は
連日お布団を干し、日のある
内に洗濯物を取り込む。また、
体力づくりを兼ねてベビーカー
を押しながらママ友とお散歩。
午後は小6・小3の子供の勉
強・友人関係に目を配り、家
事と家庭中心の生活ペースを
送っていました。そしていま
で子供達の色々なことを見逃
していたのだと気づくと共に、
もったいなかったとの思いが
強く、意識的にひとりひとり
との時間を創り自分なりに充
実した1年を過ごしました。
こんなにとっぴりと家庭に
はまっていたある日、テレビ
ドラマを見ていたら、重度の
障害を抱えながら病院での日々
を重ねる子供という設定のシー
ンが放送されました。おそら
くドラマ製作者が意図的に
「病室に呼吸器の音だけが静
かに響く無機質な空間」を強
調していたのでしようが、そ
のワンシーンが頭から離れま

せんでした。そして、おおよ
らならこの子の生活を豊かな
物にしようと向き合うチーム
がいて、その中に自分も携え
るのだと考えたら、身の引き
締まる思いと共に、また働け
ることが楽しみにになりました。
現在こだまは、呼吸器を必
要とする方が11名入所してい
る最も重症度の高いゾーンで
す。年齢も1歳から40歳代ま
でと幅広く、個々の活動以外
に学童期の訪問学級がありま
す。さらに今年の2月からは
常時呼吸器を必要とする就学
前の子と保育園へ遊びに行く
ことも始まりました。
こだまのように医療的ケア
の必要な入所者は体調管理が
大切ですが、おおよらは病院
と違い生活の場です。個々に
あった快い日々を重ねていけ
るようなケアが必要だと思
います。私に関わるのは入所者
の1日の内のごく限られた時
間ではありますが、ひとりひ
とりに向き合い丁寧に関わっ
ていきたいです。
(こだま 看護師)



の 宝箱

私「引き出し」
中の思い出

江間 麻衣

机の引き出しの中にたくさん
の手紙があります。年賀状を含
め送られてきたもの、プレゼン
トか何かに添えられていたメッ
セージカード、学生時代に授業
中に回したメモのようなものま
で、手紙と呼べるものはないで
もしまつてあります。転校して
しまった友達からの手紙、卒業
後の近況を伝える手紙、ルーズ
リーフに書かれた落書き入りの
手紙、幼稚園の先生とやりとり
していた手紙…。30年分です
からそれなりの量。古くなって破
れかけているものもあります。
さすがにこちゃこちゃしてき
て、少し厳選しようとしたこと
がありました。でもそれらをひ
とつひとつ読み返していくうち
に当時悩んでいたことやたくさ
んあった将来の夢、何年も会っ
ていない友達のことなどを思い
出して、結局もとの場所に収め
てしまいました。

それならばきれいに整理しよ
うと本に載っている収納術を参
考にすると、なんと「とってお
く手紙は2〜3年分でよい」な
のだとか。え？捨てるちゃって
いいの？と結局こちらも参考に
ならず、手紙は今も変わらず引
き出しの中です。
もともと私は「捨てられない
性格」です。手紙以外にも本や
雑誌、CDはもちろん、幼いと
きにもらった文房具類、一回も
使ったことのないキーホルダー
の束など…。もう何年も着
ていない洋服だってなかなか捨
てる気になれません。でもそれ
らにだって、どこで買った、何
のために買った、誰にもらった
という具合にちゃんと思い出が
あるのです。

この捨てられない性格は間違
いなく母親譲りで、ちよつとで
も好みのものであれば母は何で
もとっておくし、私たち姉妹3
人分の教科書とランドセルを今
でも大事にしまっておりま
す。それらに関しては「捨てれば？
と平気で言い、ついでにそのス
ペースを頂こうと思っているの
ですが、母は頑として「絶対捨
てない。」と断っています。
おかげで私の部屋は常にもの
であふれています。大げさだけ
ど、思い出が詰まった部屋で生
活しているようなもの。どれも
これも大切な私の一部です。
ちよつと照れくさい表現だった
けど、そう考えると「捨てられ
ない」も悪くはないかな。残念
ながらスッキリ整ったオシャレ
な部屋からは程遠いのですけ
ね。
(うらら 介護員)